

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	40730000491		
法人名	株式会社 データベース		
事業所名	我楽ちくしの		
所在地	福岡県筑紫野市大字山口865-1 (電話)092-929-3100		
自己評価作成日	令和 2年 7月 20日	評価結果確定日	令和 2年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・入居者様本位の生活ができるように支援している
- ・地域との連携を大切にする
- ・一汁三菜の充実した職員手作りの食事を提供している

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 2年 9月 2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から山間に少し入った、山林や田畑に囲まれた集落の中に位置し、周りの風景に溶け込むように立地している。
事業所の特徴は 風光明媚な環境と食事である。一汁三菜を基本として、毎日の食事にこだわり、季節の野菜や地元の素材を使った、利用者が今まで食べてきたような”馴染みの食事”を提供することを大事にしている。
介護経験の長いスタッフで構成されているため、個別性のあるケアプランが立案され、質の高いサービスが提供されている。コロナ禍において、積極的な外出や地域交流はできていない状態であるが、いつでも、積極的に活動を始めていきたいと職員の意識も高く意欲も持っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後、理念の唱和を行い、意識付けをしている。	事業所には地域密着型の視点がある理念があり、毎朝の申し送りの際に唱和している。理念に「その人らしさを尊重し共感します」と掲げており、職員は、利用者や家族の話を、しっかりと傾聴することを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、回覧板の共有、地域の清掃作業に積極的に参加しているが、現在はコロナウィルスの影響により行事自体が行われていない。	2、3か月に一度、地区のコミュニティーセンターで行われる寄り合いに参加し、事業所の活動報告を行ったり、地区で実施される、認知症声かけ運動に参加したりして、地域の一員として交流している。近所の住民が、野菜や差し入れをもって事業所を訪れることもある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症サポーター養成講座に参加したり、地域の集まりに参加し、施設の説明などを行っている。現在はコロナウィルスの影響で行われていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、包括、地区の方々から情報を頂き、活用している。現在はコロナウィルスのため、運営推進会議を書面にて確認して頂き、意見を頂いて、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1度開催されており、利用者家族や市の職員、地域包括支援センター、区長、民生委員が参加している。コロナ禍の現状は、書面にて報告を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出時や、運営推進会議の際に意見を頂いたり質問等を行っている。また、市からの依頼により、身寄りのない方の受け入れを行っている。	事業所の主な連携先は、市の担当窓口と、地域包括支援センターであり、双方から、事業所利用についての問い合わせを受けることが多い。認知症サポーター養成講座の手伝いを市から依頼され、実際に参加した実績もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状態に合わせ、委員会やスタッフ間で情報共有を行い、拘束のない介護に努めている。	事業所の玄関は日中施錠はされておらず、玄関には人感センサーが置かれている。スタッフは、利用者の外出傾向を把握しているため、利用者が、玄関から出かけた際には、その都度、一緒に寄り添い、散歩してから戻るようなケアを行っている。2か月に1回、身体拘束廃止権利擁護委員会が開催されており、職員が参加している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設内に委員会を立ち上げ、定期的な会議、勉強会を行っている。また、定期的にユニット毎で勉強会を開催し、虐待が行われないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パソコンより情報を集め、勉強会を行っている。分からないことがあれば、入居者様の後見人になられている、司法書士の方に相談している。	成年後見制度を実際に活用している利用者があり、制度については理解している。権利擁護に関して、会議の中で、内部研修として学習する機会はあるが、外部研修を受ける機会がない。	権利擁護に関する制度について、利用者、利用者家族に説明できるように、資料やパンフレットを準備し、適時、説明を実施することが望ましい。研修を通じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習し、スタッフで内容を共有していくことを期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず施設の特徴、種類等を説明し、不安や疑問等がないか確認しながら対応している。看取りや、緊急時の対応についても十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様面会時には、入居者様の状況報告を行い、ご意見ご要望を伺っている。また、外部相談窓口のポスターを玄関に貼り、合わせて説明している。	利用者からの希望や意見を聞いて、ラッキョウをつけたり、外出や買い物に出かけたりしている。また、外出ができない状況の現状では、腰痛、肩こり体操を日課に取り入れたり、裏庭に出たりし、希望に沿うように努めている。家族会があり、年に2回、地域住民も招いた、パーベキュー大会を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ユニット会議を開催し、入居者様のカンファレンスを行うと同時に、スタッフからの意見要望などを聞き、業務に反映している。	管理者やリーダーは、職員の話や、職員の「声」を聞くことを常に心がけており、意見をもとにユニット会議で検討し、職員のローテーション制度を取り入れたこともある。個別に対応することもあれば、職員皆で話し合い、相談しながら、運営やサービスへと反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者より、職員個々の努力や実績を含め給与や賞与の改善に努めている。残業は極力無くすようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女問わず採用し、新入職員に対してはベテランスタッフが就いて指導している。業務によっては管理者が直接指導している。	職員は幅広い年齢層で構成されている。定年年齢の規定はあるが、希望すれば継続して勤務が可能である。パート職員は雇用しておらず、全員常勤職員である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表及び管理者、ケアマネが積極的に他スタッフの手本となるように入居者様及び、ご家族に接している。定期的な勉強会が出来ていない為、今後は時間を作っていききたい。	人権については、ユニット会議の中で、利用者個別のケースにおいて話し合い、個人を尊重するケアの実践に努めている。外部への研修参加や伝達研修ができていない。	人権研修については、資料やテキスト等を用いて実施し、研修記録を残していくことが望ましい。外部研修が行われていない状況であるが、DVDや動画配信等を活用し、人権について教育、啓発活動に取り組むことを期待したい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウィルスの影響により外部研修が難しい。ユニット会議内にて勉強会を行っているが、内部研修として今後より一層力を入れていきたい。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナウィルスの影響もあり、交流が図れていないが、今後はオンラインなどを活用し、交流が図れるように工夫をしていきたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の要望など聞き取り、ケアマネを筆頭に、現場で意見交換をしながら対応している。また、ユニット会議内でケアカンファを行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会に来られた際に、状況報告を行い、ご意見、ご要望を伺っている。現場にフィードバックし、対応の検討を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時、入居者様の状況を観察し、必要に応じた対応を行っている。医療については主治医へ相談し、対応している。サービスについては、市役所などに確認し、対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にできる限りの事を行い、入居者様が不安にならないように対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族会を実施しているが、コロナウイルスの影響があり、現在は見送っている。面会時は必ず近況報告を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の希望に沿って面会や外出の支援を行っている。現在コロナウイルスの影響で、外出が出来ていない。	職員は、利用者の馴染みの人や場所について、利用開始時に、利用者、家族から聞き取りを行い、また、入院中であれば、入院先の医療機関から情報を収集している。馴染みの散髪屋で、パーマをかけたいといった要望や、ドライブで馴染みの場所に行きたいと言う希望に沿うような支援を行い、関係の継続に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格もある為、スタッフが観察し、随時評価を行い、リビングでの席の配置を考慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた入居者様のご家族の方がボランティアで草刈りなどの手伝いをしてもらっていたが、コロナウイルスの影響で現在は来られていない。退所後の方は、相談があれば常時受付し対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様やご家族様の希望を優先し、出来る限りの対応、居室での食事、外出、入浴日の対応を行っている。入居者様本位の介助を心掛けている。	職員は日々の関わりの中で、利用者の意向の把握に努めている。普段、誕生日ではケーキを用意するが「どら焼きが食べたい」との要望があれば、対応している。また、意思疎通が困難な利用者には、行動や表情から真意を推し測っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の居住地、病院や、ご家族様、包括、民生委員の方々より、情報を頂き、スタッフでカンファレンス行い、介護計画に反映させている。また、本人様との会話の中で情報を探し、計画に生かしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の入居者様との会話や、スタッフの申し送り、ケース記録により、入居者様の現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に、ケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	ケアマネジャーが中心となり、一人ひとりの意向に沿った個別具体的な計画を作成している。毎月のユニット会議で対応方法について話し合いながら、3ヵ月に1回、また、必要に応じて内容を見直しており、計画内容を本人、家族へ説明し、署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入がまだしっかりと行っていない所がある。その方の言動や、思いなどその時の状況、スタッフが掛けた言葉なども、今後は記録として残していきたい。スタッフ間での情報共有は行っており、介護計画の見直しについては行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルスの影響により受診などの制限がある為、外出制限があるが、密を避ける形での対応を取っている。基本的には本部に確認し、柔軟に受け入れが出来るような体制を取っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響により外出が難しいこともある為、外食はテイクアウトで対応し、嗜好品や物品については、密にならないように買い物を楽しんで頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、提携医療機関の説明を行っている。施設方針としては提携医療機関を勧めるが、ご家族様、入居者様の希望があれば、他科への通院介助も行っている。	利用開始前の受診経過や受診の希望を確認している。協力医療機関に移行することも可能である。今までのかかりつけ医を希望された場合は、その都度検討している。通院介助は、施設職員が行っており、状態に応じて家族へ同行を依頼している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介助時に異常の早期発見に努め、異常がある際には、直ぐに看護師へ報告している。また、看護師も入居者様に関わっているため、状態により、適切に接している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、スタッフができる限り毎日訪院し、病院看護師を通し、担当医師へ状態確認を行い、結果をご家族様へ報告している。洗濯物についてはスタッフが持ちかえり、洗濯している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にターミナルケアについて説明を行い、ご家族様へ理解を頂いている。また、ターミナル期になられた際には定期的にカンファを行い、今後の方向性についてご家族様と話をしている。	事業所の対応方針が明文化されており、利用開始前及び状況に応じて説明を行っている。家族と施設で行える最大限の支援を話し合い、全員で方針を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、連絡網を作成している。オンコール体制として、看護師へ連絡し指示を仰ぐようにしている。又、管理者が連絡を受け直ぐに支持を出せる体制を取っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災に対する行政の指導もあり、消防署はもちろん地域消防団の地区の方を含んだ協力体制の訓練を行っている。今年度については、コロナウィルスの影響で、9月に予定している。	非常災害対策計画を作成しており、消防署の協力を得て、年に2回、避難訓練を実施している。その内、1回は夜間を想定して避難訓練を実施している。しかし、実施する際、地域住民に呼びかけておらず、地域住民の参加がない。非常用備品については、事業所内に3日分以上の食料品や飲料水を準備している。	職員だけの避難訓練では、誘導の限界もあるため、運営推進会議を有効活用する等、地域住民の協力が得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みを期待する。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	友達関係のような言葉遣いではなく、人格を尊重した言葉で声掛けを行っている。	人前であからさまに介護しないよう、耳元で声掛けを行ったり、排泄介助の際は、さりげなく誘導したりとプライバシーが確保できている。また、毎月のユニット会議で声掛けの方法について話し合い、意識の向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を話しやすい環境づくりを心掛け、訴えの傾聴に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間、入浴等、希望に沿った対応を心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様や、ご家族様の希望を取り入れて支援している。衣替えなども支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度の高い方には茶碗の洗浄や食器拭き等手伝ってもらい、その他の方には、洗濯物量みを手伝ってもらっている。	職員と利用者は、一緒に準備や片付けを行っている。菜園で育てたトマトやきゅうり、茄子などを一緒に収穫して調理したり、日頃のやり取りの中で嗜好を確認し、献立に取り入れたり食事が楽しめるよう支援している。また、一汁三菜を基本とし、健康に配慮した食事を提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝のバイタルサインのチェック、排泄確認を行い、個々の状態に応じた料理法により支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってもらい、必要に応じて介助を行っている。また週1回ないし、必要に応じて訪問歯科による指導も受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握することで、排泄困難な方もトイレ誘導ができるように支援している。	利用者一人ひとりのサインを把握し、尿意のない利用者については、排泄チェック表を用いて、時間の間隔を確認し、トイレへ誘導している。ユニット会議でおむつやパットの種類について話し合い、時間帯によって使い分けたりと、利用者一人ひとりについて常に見直している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、排泄の報告を行い、医師の指示も含め、緩下剤の調整を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日以外でも、失禁による汚染時などは適宜対応している。拒否があり、入浴できないときは、出来るだけ、希望に応じて入浴して頂けるようにしている。	週に2回の入浴を基本としている。希望があれば、いつでも入浴できるように準備している。また、夕食後に入浴したいとの希望があれば対応している。入浴を拒否される利用者に対しては、声掛けや浴室まで誘導の工夫を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的な訪室を行い、空調調整、換気を行っている。本人様の希望に沿って、午睡等も取って頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方後、看護師が確認し、変更があれば常時介護スタッフへ申し送りを行い、確認している。後発薬であれば特に、看護師、薬剤師、介護士ともに確認し、変更後は状態観察に努め、担当医へ報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のいっしょ会（レクリエーションの時間）で歌やゲーム、体操を行い、楽しんで頂いている。また、家庭菜園や花壇の草取りなどを一緒に行ってもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り入居者様の希望に沿えるように対応しているが、現状コロナウィルスの影響のため行えていない。	週に1回以上は散歩に出掛けており、3ヶ月に1回程度、秋桜や花見、夏祭りなどへ外出している。また、家族と協力しながら外出に行ったり、受診後に、一緒に買い物をしたり、気分転換が図れるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方が少ない為、事務所でお小遣いとして預かり、外出時には介助し、ご本人様に支払いを行ってもらっている。また、ご自身やご家族様の希望があれば少額お渡しし、ご自身で管理して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などへ電話をしたいと、申し込みがあった際には電話をかける支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は特に清潔に保ち、玄関には花や観葉植物を飾り、季節感を感じてもらおうようにしている。また、室温などについてはスタッフが管理している。	利用者と一緒に作成した飾り物が展示されており、空調の調整や外の明るさに合わせて、光の量を調整するなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、館内からの見える景色もよく、心地よさが感じられる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下にはベンチを置いている。個人の席については状況確認をしながら、変更したりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみの物を持参して頂き、自宅にいるように感じてもらっている。	居室には馴染みの筆筒や椅子などが持ち込まれている。また、家族写真やポスター等が飾られており、利用者の個性が感じられる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の時など、自力にて出来るところはご自身で洗身して頂き、出来ない所はスタッフが介助している。また、洗濯物畳み等のお手伝いをして頂いている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示していつでも見れる様にしており今後も毎朝の申し送りで唱和してより理解を深めていく		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事で地域交流会を実施し一緒に食事などで団欒して交流を深めている。また近くのお寺に伺い年末は除夜の鐘つきを行いました。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同地区におられる区長や入居者様を通して家族や地域の方からご理解頂いている。また、同地区で行なわれる認知症サポーター養成講座に参加し情報共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。利用状況や現状を報告してそこで出た意見を反映している。又、包括や市役所などに空の連絡をし紹介なども受けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も参加されるなど協力を頂いている。また、入居者の事故については必ず内容の確認や意見なども頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会および施設スタッフ間でミーティングを行い状態を見て拘束のない行為・介護に気を付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	社外研修に参加し普段から身体拘束や虐待はしないという意識を持っている。またミーティング時に周知徹底している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書籍や資格の資料などで学んでいるが現状活用する機会がなかった。今後利用して活用する機会を持ちたいと考えている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話し合いをした上で施設の概要や状況を説明している。不安や疑問点が無いか対応しており利用する病院や歯科なども決めて頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状況報告を行っている。また、必要時にこちらから連絡し相談させて頂いている。他、家族交流会などにご意見を伺うこともある。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット会議を開催しており意見を出している。また、いつでも意見を言える雰囲気や関係に努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績が給与等に反映されている。また、時間や条件にあわせて社員・パートなどに区分されている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女問わず採用しており平等に業務を行える様努めている。皆が同じ業務を出来るように心掛けている。介護未経験者も採用育成している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員同士でも差別せず敬語など用いて話すようにしている。施設にある書籍を見たり研修に取り組むようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行う業務に対して覚えられない、出来ない業務は何度でも出来る機会を作り慣れしていく。社外研修は今後機会を増やして行く。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域行事を通じて情報交換を行って交流している。ネットワークなども活用したい。サービス付住宅からの相談や受け入れも行なっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の生活の中で本人の訴え、ご意見があれば個人記録に記載して毎日の申し送り及び会議で意見交換を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い入居の方法を考えている。また、ケアプランの中で確認して頂き要望があれば反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し事前に確認している。他のサービス事業所とも連携して対応している。入居前に家族の要望や本人様の希望を聞きカンファレンスを行い、サービスの実施を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活している事を感じてもらえるよう出来る限り一緒に話す機会を作っている。喜怒哀楽を共に分かち合う。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から連絡を取りコミュニケーションをとるようにしている。また、面会時や受診なども近況報告し共に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿って連絡や面会を行ったり出掛けたりしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で入居者様の状態を確認し、気の合う人や話せる人同士の座席配置などを考慮している。一緒に話せるよう移動もしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	庭の草刈りやボランティアなどをして頂いたりしていた。また、地域行事と一緒に参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向や思いを確認し実現させている。困難な場合はご家族と相談したり検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴や既往歴をサマリーで確認している。またケアプランや日々の生活の中で反映出来るよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタル表などで状況の把握をしている。申し送りノートなども活用している。又、洗濯物量や食器拭きの手伝い等もお願いしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン実施記録を記入し課題や検討が必要な時は毎日の申し送り及び会議にて支援出来るようにすると共に、ご家族様来所時に相談なども行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などを記録に記入し申し送りノートで情報共有している。今後は詳細を簡潔に書き皆の理解をより深めていきたい。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と外出したり一緒にドライブに行ったりしている。また、庭で野菜の収穫も一緒にこなしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イオンやスーパーなどに行き一緒に買い物を楽しんで頂いている。時には入居者様の要望で食事に行ったりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に提携医療機関の説明をしている。受診時は職員も同行し医師に状況を説明し医療を受ける様にしている。又、診察結果などを、診察後にご家族様へ連絡している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職同様に日々介助にあたりお気になる事があれば相談し受診等の指示を受けている。又、創処置方法や服薬指導なども受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時もお見舞いや連絡を必ず行うようにしている。看護師やソーシャルワーカー等と連携を取り状態を確認している。お見舞い時に洗濯物を預かり着替えを持参し、状況をご家族様へ連絡している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアや看取りの説明をしておき書面でも意思確認を行っている。またターミナル期にはご家族、医療機関と連携を取りご家族様の要望を確認し、最大限出来ることを支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはスタッフ間で連絡を取る様にしており対応している。指示や手順を出した上で行動を行うようにしている。今後講習や研修に参加して皆が対応力をつけれるようにしたい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災などの行政の指導や運営推進会議で地域の協力を呼び掛けている。又、区長、民生委員、介護スタッフとの連絡体制を取っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さん付けや下の名前で呼ばない様心掛けをしている。目上の方だと意識して不遜な態度にならないよう気をつけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから決めつけず選択肢を作るよう働きかけている。話を傾聴する様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝る時間や起きる時間、入浴などは一律に決めずに本人の希望により対応している。社訓にあるように、規則が無いことが規則としている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やシャンプーなどご本人が使用している物を使って頂いている。服も本人の好みや状況に応じて選んで頂いている。又、昼夜の区別が分かるように洋服の着替えを必ず行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的にはスタッフが料理を作り、季節に合わせてたり本人が食べたいものを会話の中で聞くようにしている。食器拭きなども手伝って頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて刻み食やミキサー食にしている。水分は勤めるように声かけを行っている。食事量が少ない時は再提供したり記録に残したり申し送りで伝えるようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、口腔ケアを行っている。又、訪問歯科にてフォロー、相談などを行なっている。義歯の消毒も毎日実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄の時間帯、パターンを把握声掛けし誘導を行なっている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを記録し、予防に努めている。水分補給に牛乳を勧めたり食物繊維の多い芋料理もおやつに取り入れたりしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に入浴日を決めているが汚染時などシャワー対応している時もある。声掛けして拒否などあればはずす時もある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく昼夜逆転しない様にしているが本人の希望により寝ている事もある。負担はかけないよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書などをバイタル表に貼り付けており確認出来るようにしている。看護師、薬剤師とも連携を取り確認しながら状態を日々確認し情報の指導を受けている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションでラジオ体操、頭の体操、歌やゲームを行っている。また庭に出て職員同行のもと散歩したり野菜の収穫を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事で桜やコスモス、菖蒲見学に行ったり秋に紅葉を見にドライブに行ったりしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な為事務所で小遣いとして預かっている。本人の理解と同意を得る働きかけをしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けたり、知人からのお手紙などは居室に置いて本人がいつでも見れるようにしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃を行い清潔にするよう心掛けている。温度調節や余計な音を出さない様にしたり、足が踏くようなものは、置かないようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分に応じて席を変えたりソファに座ったりして頂いている。居室で食事を取る場合もある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人家具の配置など本人が自宅にいた時のように使いやすい場所で決めている。また、使い慣れた物を使用している。又、居室に設置物の制限はしていない。(危険物、刃物などは別)		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物畳みなど出来る方にはして頂いている。入浴で自身で洗える所はご自分で洗身して頂き出来ない部分は介助している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		